

Causes of Nonperforming Loans in the “Heisei Depression”

大阪大学大学院 國方 明

大阪大学 筒井義郎

In this paper, we use panel data on city banks, long-term credit banks, trust banks, and regional banks from 1992 to investigate empirically the causes of nonperforming loans in the Heisei Depression. We analyze loans to borrowers in legal bankruptcy (LBB) and past due loans (PDL), and examine not only announced outstanding nonperforming loans but also the estimated amount newly arising. The results suggest the following. First, the estimated amount of PDL newly arising is not reasonable, suggesting that there is a problem either in estimating PDL or in applying the model to the amount of PDL newly arising. Second, the Heisei Depression and bank policies in the bubble period greatly affected the amount of nonperforming loans. Third, management policy in the Heisei Depression did not play an important role in reducing nonperforming loans.

<コメントへのリプライ>

清水克俊先生(青山学院大学)からのコメントへのリプライ：

パネルデータが少なすぎるため、固定効果モデルと変わらないのではないか？

この点については、地価のデータを地域別にする等の修正を図りたい。

費用をかけた銀行の方が不良債権を削減できるはずなのに、報告の説明は逆ではないか？

この「費用」というのは不良債権の償却を指すと考えられるが、我々は平均費用の分子に営業経費を考えている。よって先生のコメントはあたらないようにも思われる。

堀江康熙先生(九州大学)からのコメントへのリプライ：

金融業への貸出シェアを説明変数としなかったのはなぜか？

別のバージョンの推計モデルでは、金融業への貸出シェアを説明変数としていた。しかし有意でなかったため、報告したモデルでは省略している。

リストラ変数について、因果関係が逆ではないか？

我々はリストラを積極的に行った銀行の方が不良債権を削減できるという説明をするため、3年前との平均費用の格差をとっている。よって、因果関係では問題はないように思われる。